

血液内科

概要

部長：近藤 忠一

スタッフ：8名（5名は日本血液学会指導医）

専攻医：6名

外来：予約外来と新患外来の2.5診/日体制

診療実績：

- 1) 新規患者数は急性白血病が50名/年前後、悪性リンパ腫150名/年前後
- 2) 2023年 同種移植 28件/年 自家移植 19件/年 CAR-T療法 16件/年
- 3) 現在患者登録中の受託治験 48件

特徴

悪性リンパ腫や多発性骨髄腫などの治療は初回治療を除き原則として外来化学療法部で行われるが、急性白血病の治療や、自家ならびに同種造血幹細胞移植は、無菌病室をフル回転して行っている。当院は救命救急センターであり、血栓性血小板減少性紫斑病などの希少な非腫瘍性血液疾患に接する機会も多い。

入院診療は、4名のスタッフ医師と、3名の専攻医よりなる2つの診療チームを単位として行われている。患者さんごとに主治医を置くものの、重要な病状説明や治療手技においては、診療チーム全体で対応している。また、患者さんの病状や治療方針はチームのすべての医師が理解し、把握している。診療チームの利点は、若手医師は常に上級医師の指導を受けることができること、入院から外来診療への移行がスムーズに行われることのほか、学会参加のみならず、急な体調不良時など主治医不在の際においても、患者さんに不利益が及ばないことにある。専攻医の学会参加は大いに推奨され、夏季休暇・年休の取得に支障はなく、超過勤務時間も適切である。

当科では年ごとに外来診療の比率が高まっており、最近では外来収益が入院収益と肩を並べるまで増加している。2年次以降の専攻医には外来枠を確保し、入院で導入した悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の化学療法の継続や、移植患者の外来フォローを行うことができる。スタッフ医師の外来は常時行われているので、専攻医が外来診療で迷ったときにはスタッフ医師のアドバイスを受けることができる。

高度医療に関しては、2020年11月にキムリア診療の施設認定を受け、CAR-T治療を開始した。2022年にブレヤンジ、2023年にイエスカルタの承認を受け、2023年は16例のCAR-T療法を実施した。また、当院は新規薬剤の開発治験に深くかかわっている。国際共同第III相試験のみならず、第1相・II相試験も行っており、従来治療法がなかった患者さんにも恩恵をもたらすことができる場合がある。多くの治験に参加することで、近い将来の医療を展望できる。

学術面では、診療成績の向上を目指した臨床研究を推奨している。今まで多くの研究が日本血液学会総会、日本造血・免疫細胞療法学会総会のみならず、米国血液学会（ASH）や欧州血液学会（EHA）などで報告され、論文化もされてきた。平成23年以降の12年間に当院の専攻医、若手医師を筆頭者とする演題がASHに32題採択され、うち2題は口演に採択された。また14題がabstract achievement awardを受賞した。

一般目標

貧血などの血球減少症、血球増加症、不明熱、リンパ節腫脹、肝脾腫、出血傾向などを呈する患者に対して、しっかりとした鑑別診断を立てたうえで正確な診断ができること。診断確定後には、エビデンスに基づいた適切な治療計画を立てることができ、確実に遂行できる能力を養う。治療には同種造血幹細胞移植のみならず、緩和的医療も含まれる。

行動目標

- 1年目：** 骨髄塗抹標本スミアを読み、血液疾患の鑑別診断ができる。また治療効果の評価ができる。
造血器腫瘍それぞれに対する標準的な化学療法を理解し実践できる。
同種造血幹細胞移植の適応を理解する。
- 2年目：** 骨髄生検やリンパ節病理標本の所見が理解できる。
入院中に受け持った患者を外来でフォローできる。
外来化学療法を安全に施行できる。
新規発症血液疾患患者における治療方針を主体的に立案し、実行できる。
再発患者、難治性患者に対して救援療法を立案し施行できる。
造血幹細胞移植の併発症を診断し適切に対応できる。
治療成績の向上を目指した後方視的検討を行い学会や研究会で報告する。
前方視的臨床研究（治験を含む）に参加する。
英文もしくは和文で症例報告を1編以上投稿する。
- 3年目：** 外来を新規に受診した血液疾患患者を診療し診断することができる。
同種造血幹細胞移植のドナー選択、幹細胞源の決定、前処置やGVHD予防法の立案でき、併発症に対して適切に対応できる。
国際学会で演題を報告する。
- 4年目：** 臨床試験の立案ができる。
3年目以下の専攻医の指導ができる。
診療チームのなかでリーダー的役割を果たせる。

週間スケジュール

	朝	午前	夕
月			内科カンファレンス
火			血液病理カンファレンス

水	抄読会		
木			入院患者カンファレンス
金		回診	

専門研修プログラム

神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident

見学等問い合わせ先

近藤 忠一 : tadakazu_kondo@kcho.jp